

新規事業 ネパール

被災地における女子教育および保健衛生改善事業

—地震に弱い地域の女子の継続的な学びの場を確保し、
保健衛生や社会文化的な習慣を変容する—



活動地域:ネパール北西部カルナリ州ジャージャルコート郡ナルガード
事業期間:2025年2月~2025年10月
事業規模:当年度支出額4,079千円(総事業規模:4,079千円)
主な支援者:個人等

88人

対象校の生徒の数

2部屋

建設予定の耐震性の高い学習施設の数

6つ

手洗い手順の数



▲インドラダマシュ小学校(支援前の外観)

課題

地震が頻発するネパールのなかでも、特にカルナリ州ジャージャルコート郡は災害脆弱性が高く、2023年に発生した同郡を震源とする地震では、子ども81人を含む154人の命が奪われました。この地震により、898棟の校舎が損壊し(全壊294棟、一部損壊604棟)、およそ13万4,000人も学齢期の子どもたちの教育に影響を及ぼしました。未だ復興途上にあることから、多くの子どもたちは、屋外で授業を受けるなど、学習を継続するうえで困難に直面しています。その影響は、社会文化的な要因とも絡み合い、特に女子に広範囲に及んでいます。適切な保健衛生施設などのインフラ不足、ジェンダーの不平等、月経に対するタブーや偏見、カースト差別、早期婚などの社会的構造に深く根ざしたこれらの問題が女子の就学率の低さにつながっています。

活動内容

本事業は、インドラダマシュ小学校を対象としたもの。主に、1)建設活動と2)啓発活動を行いました。1)では、学校管理委員会の主導で建設委員会を設立したうえで、耐震性の高い2部屋から成る学習施設の建設を進めました。また、ジェンダーに配慮した水と衛生設備の改修、具体的には、貯水タンクの設置を含む手洗い場の設置と水洗トイレの補修を行いました。2)では、生徒会のメンバーを対象に、水・衛生と月経期における衛生管理オリエンテーション、正しい手洗いの6つの手順のデモンストレーションの実施に加え、月経にまつわる社会的慣習や因習を変えるための課外活動を行いました。また、5~10年生の思春期の女子生徒を対象とした、性と生殖に関する健康と権利(SRHR)と月経衛生管理に関するオリエンテーションも実施。さらに、女子に対する暴力と差別をなくすため、ジェンダーに基づく暴力(GBV)予防に関する研修を行いました。

担当者の声



▲現場の女性建設作業員

ニーバ(ヘルスケア・SRHR担当)

インドラダマシュ小学校は、(当財団の支援が入るまで)どの団体からも再建のための支援を受けることができず、学校設備の状態が悪いため、生徒たちは野外で授業を受けていました。さらに、未就学クラスと1年生の子どもたちは一緒に授業を受け、同様に、2年生と3年生のクラスも一緒に教えられています。生徒たちはグラウンドで授業を受けていますが、冬が近づくにつれ、寒さのなかで勉強を続けるのは難しくなり、このことは子どもたちの健康問題にもつながっています。野外での授業や学習活動を管理することは大きな課題となっていますが、日本から支援を受けられることにとても感謝しています。また、先日現場を訪れた際、女性の作業員を見つけ、思わずシャッターを切りました。この事業が女性の就労にもつながっていることをうれしく思います。